

アレルギー性結膜炎

涙から1分で診断

佐賀大など、キット開発

涙に含まれる特定のタンパク質を分析することにより、1分でアレルギー性結膜炎かどうか診断できることを佐賀大などのチームが突き止めた。の涙で判定でき、数年以内の実用化を目指す。ほかの目の病気と素早く見分けられれば、早期に適切な治療を受けられるようになる。

アレルギー性結膜炎は花粉やハウスダストなどが目に付着して結膜が炎症を起こす。アレルギー性の有無は医師の所見と採血で総合的に診断する

のが一般的だが、類似の病気があり見分けるのは難しい。血液分析は時間がかかるうえ、目の病気との関連を特定しにくい難点があった。

佐賀大医学部の出原賢治教授(生化学)、国立成育医療研究センター(東京)などのチームは涙に含まれる「ペリオスチン」というタンパク質に着目。アレルギー性結膜炎患者は濃度が異常に高く濃度で重症かどうか判断できることも確認した。

既に検査キットを共同開発、検査薬メーカー「シノテスト」(東京)が2018年に国へ製造の承認を申請する予定だ。

アレルギー性結膜炎の国内の患者は約2千万人と推定される。

